

「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員発言要旨
—人材育成部会—

開催日：平成22年7月16日（金）14：00～16：00

場 所：トキハ会館 カトレア

出席委員：山崎部会長、山本委員、板井委員、小野委員
後藤委員、千竈委員、平田委員、堀川委員
松本委員

テーマ1 長期総合計画「安心・活力・発展プラン2005」の評価
と課題について

〔議事概要〕

(1) 計画期間の前半を振り返って

- ・施策の「生涯学習社会の形成と社会教育の推進」の指標が、「公立図書館の蔵書冊数」となっているが、本が増えることが「社会教育の推進」につながっているのか。例えば、「公民館の運営」の方がよいのでは。
- ・蔵書冊数は決して多いとはいえない。特に地方では本に触れる機会が少なく、不便なのが現状。
- ・NPO との協働の推進に関する取組として、県職員が NPO の現場を体験し、理解することは大変いいことだと思う。
- ・NPO の数は多いが、県民会議等のメンバーにはあまり NPO が参加してない。もっと NPO を積極的に活用し、こうした人たちの意見をいろんなところで反映させる機会を作るべき。
- ・歴史博物館は、素晴らしい施設であるにも関わらず入館者数が少ないのは、場所と PR 不足が問題であると思われる。入館者数を増やすために、社会見学のコースに加えてもらってはどうか。ダイハツの工場には小学生が社会見学で多数訪れている。
- ・県内大学等の地域連携協定に関しては、事業の一環として共同研究に取り組む学生は増加しているが、学生が自主的に行う活動が減ってきているのが心配。
- ・総合型地域スポーツクラブの活動が停滞してきている。作ることも大事だが、既存のものをどう活性化するか考えることも必要。指導者の効果的な活用方法を検討すべき。

(2) 新たな政策・施策課題について

- ・蔵書冊数の多さは必要なことではあるが、評価としてはさらに、県民にその効果が出ているのか等、その使い方や用い方を検討することが必要では。
- ・新規学卒者の離職率が高いが、各分野で働く人の話を聞いたり、職場体験をするなどのキャリア教育の推進を目標に掲げることも考えるべき。
- ・キャリア教育以前に、家庭で仕事を与えることが大事。昔は家庭で何か仕事を手伝っていたもの。家庭での仕事の手伝いを小、中、高の中で評価してはどうか。
- ・芝居等を見る機会に恵まれていない。学校の体育館でもよいので、本物の文化に触れる機会を増やせば、文化への関心度が高まるのでは。
- ・障がい者、小児病棟患者などへの配本や読書ボランティアによる読み聞かせ、少年院への本の貸し出し等、本を借りることが困難な方へのサービスも必要では。

(3) 今後の方向性について

- NPO は、子育てや青少年といった県民会議等の場にもっと若い人を出席させることで、若い人の知識や現場の声を行政に活かしてもらうことが必要。
- NPO への事業委託が進んでいないが、まず行政職員に NPO というものを周知することが基本であり、各々の NPO の規模や得意分野を考えた上で協働しやすい形を作っていくことが大切。
- 最近では、NPO 同士が連携したり、ボランティアと連携して事業を展開する方向にシフトしている。事業も単年度ではなく、継続的なものにつなげていくためにも、いろいろなボランティアと協働していくことが大切。
- 歴史博物館の入館者数が減少しているが、小中学生の間に1度でも歴史博物館を訪問し、ガイドから説明を受けるような機会があれば、文化財や歴史を見る目が変わり、未来のリピーターの確保につながるのでは。